様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　９ 月 ３０ 日現在

機関番号：３７４０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｈ００７８７

研究課題名（和文）水俣病被害者に対する補償・救済と地域復権に関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive research on the compensation and relief for Minamata disease sufferers and victims and the regional restoration

研究代表者
花田　昌宜（Hanada, Masanori）

熊本学園大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：３０２７１４５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,200,000円

研究成果の概要（和文）：現行の被害者救済策、地域振興策、自然生態系や環境汚染の全体像に関する資料を収集・整理し、制度および政策の全体の構図を明らかにした。
（1）不知火海沿岸地域の健康被害調査を経て被害の受容と社会的背景を踏まえれば漁民の社会的関与がレジリエンスのキーであることが明確になった。（2）生活実態と健康被害の検討をおこなうとともに被害地住民の生活ニーズや疾病状況、ケアのありようと課題を明確にすべく訪問調査による聞き取りが実施できた。（3）資料収集に関しては概ね計画通りに進んだが、それに伴い新たに当時の代理人弁護士らよりあらたに寄贈されこれからの課題とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本調査研究を通して従前より明らかにされてこなかった現時点でなお進行している日常生活における被害実態及び苦痛と苦悩について、過去の個々の被害民の経験及び村落における職業生活や共同体的な集団生活実態を通して明確にすることができた。これらは、語りや文学作品に見られるような表現形式による採録はなされてきたことはあるものの、社会科学的な方法論に立った調査成果は少なかっただけに、我々の成果は大きな意味があり、この分野と領域の調査研究に新たな地平を切り開くことができたものと自負している。

研究成果の概要（英文）：We collected documents and divers type of materials related to Minamata disease patients relief policy, regional development measures, and clarified the overall structure of systems and policies. (1) After investigating health damage in the Shiranui Sea areas, it became clear that the social involvement of fishermen is the key to resilience. (2) We examined the living conditions and health damage, and conducted interviews through on-site surveys to clarify the living needs, disease status, care methods in the affected areas. (3) The collection of materials proceeded largely as planned, but as a result, new materials were donated by the lawyers representing the residents at the time, which will be a future challenge.

研究分野：社会政策学

キーワード：水俣病　被害　環境破壊　被害救済策　レジリエンス　健康破壊

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

1.　研究開始当初の背景：

水俣病事件に関する社会科学的研究は多様にあり、近年の社会科学的な研究では、法学者の富樫貞夫『「水俣病」事件の 61 年』（弦書房、2017 年 11 月）や被害補償制度の成立過程と国の支援策を追求した永松俊雄『環境被害のガバナンス』があり、人類学や社会学からのモノグラフィックな研究と調査が見られた。一方、本研究課題がベースとしている水俣学研究センターでは、故原田正純氏唱により現地に根ざし被害者に寄り添う研究プロジェクトが立ち上がっており、研究紀要『水俣学研究』を定期刊行するとともに著作（『水俣学ブックレット』1〜18、熊本日日新聞社刊、水俣学資料叢書など）も刊行している。また、2016 年に水俣病被害者 8000 人を対象として大規模アンケート調査を実施したが、それによって水俣病をめぐる課題がなお数多く残されていることを被害者自身が語り出すという成果が得られた（熊本学園大学水俣学研究センター編『水俣病公式確認アンケート調査最終報告書』2019 年 2 月、92p、守弘、中地、花田ほか「水俣病公式確認アンケート調査結果総論」『水俣学研究』第 9 号、pp.19-38、2019 年 9 月）。この調査が明らかにしたのは、水俣病事件における被害地域および被害民の生活が、種々の救済策とそれをめぐる政治および制度政策によって翻弄され、しかもそれが 70 年近くにわたり続いてきたという驚くべき事実であった。本研究計画はこれらの調査研究の成果を踏まえて進められた。

2.　研究の目的

従来からの研究では水俣病被害者の健康被害や社会的被害などの個人や地域の脆弱さ（ヴァルネラビリティ）に着目されることが多かった。それに対して、本研究においては、研究協力者の下地明友（『＜病い＞のスペクトル』金剛出版、2015）が提起した水俣病被害に関わる「レジリエンス概念」に着目し、その拡張を通して、「強靱なる主体としての水俣病被害者」ととらえ、研究の新たな地平を切り開こうというものである。レジリエンスは「困難/苦難に耐える能力であると同時に、経験を通して再構築される潜勢的な力」と理解する。契機は被害者の個人の医療・健康被害とレジリエンスであり、それは水俣病患者の病いと苦難をかかえた日常生活の中での様々な回復体験で見ることができる。ただ、水俣病被害が補償と復権を求める社会的闘争を通して、レジリエンス概念の社会化と顕勢化といわれる事態が起きていることにも着目した（花田、2016）。

3.　研究の方法

本研究の基礎には申請書にも記載したが、プロセス・ドキュメンテーション研究がある。これは、存在する種々の文書や記録をその制作過程に位置付け解析していくもので、今回の調査では、文書に加え音声記録をテキストデータ化し、質的分析を加えることとした。まず、従来の研究では体系的には取り組まれたことがない水俣病発生初期から今日にいたるまでの水俣病多発地域の 64 年にわたる政策資料の収集・整理をおこなった。これは多発地域の自治体の種々の年次計画や保健福祉計画、国・県の施策の資料（法規や通知通達類だけでなく県議会や衆院参院委員会の議事録）の収集を含む。これらのうち半数程度は水俣学研究センターの資料群の中に見いだすことができた。その他は公立の文書館や自治体に協力依頼して進行中である。なお、資料蒐集と整理については、水俣病事件資料集の刊行を目途とする水俣病資料研究会を立ち上げて、定期的 2-3 ヶ月に一度資料収集を含め

た研究会を行なった。なお同時に行政担当部局、地方議員、商工業者、医療福祉関係者、地域 NPO、被害者団体リーダーや支援者ら地元のステークホルダーを対象としてインタビューを実施する計画であったが、コロナ禍が完全に終息したとは言えない状況でなお途上にある。

4. 研究成果

① 調査設計とレジリエンス評価手法の開発
研究代表者が中心となって、水俣病に関連して進められている被害者救済、地域振興策、自然生態系や環境汚染の全体像を資料に基づいて明らかにするべく研究会を実施、調査の具体的手段、方法を確定した。

② 不知火海沿岸地域の漁村における生業調査と健康被害調査
漁村ごとに漁法も魚種も漁業形態も異なることに着目し、漁民の生業と健康被害の状況およびその連関を調査、被害の受容およびその社会的背景を明確にするべく調査の実施。水俣市、津奈木町および対岸の近海離島（御所浦）において、漁民の社会関与がレジリエンスの要素をなすことに踏まえて各種漁業資料と漁業者のヒアリングを重ね、合わせて研究協力者の参加をえて、臨床医学的な水俣病健康調査も行った。

③ 健康と生活被害実態の検討
水俣病被害民の健康被害のあり方を再考しそれをふまえたケアの必要性という観点から考えて、種々の属性を有する水俣病被害者たち（在宅療養者、通所サービス利用者、入所施設利用者、医療機関入院者）を選定し、生活ニーズや疾病状況、医療ニーズをふまえたケアのありようと課題を明らかにすべく、訪問調査による聞き取り、検診などを実施した。

④ 高齢者施設水俣病患者調査
上記 ③の調査でスクリーニングされた被害者のうち施設入所者を対象とした面接調査を実施するという調査計画であり着手したのであるが、種々の社会的障壁がありなお調査途上である。この調査は、産業発展と近代化による家族の変容と共同体社会の崩壊が水俣病多発地域においては、地域での在宅ケアを困難にし、入所施設への移行が強いられるが、水俣病に特化した福祉施設や事業者はわずかで社会生活上の困難などの固有性は顧みられることが少なく、記述的なレポートは作成したが、公表するにはない追加調査と当該の被害者の承諾を得る手続きが必要とされているところである。

⑤ 被害を生む社会・自然生態系の現状と課題
このような調査を踏まえて、被害の社会・生態系の影響を研究する。自然生態系の変容と住民の生活については、水俣芦北地域において、同種の調査を実施する計画で、資料の収集やヒアリング記録の作成を行なった。コミュニティの持つ潜勢力に着目し、沿岸漁村部、島嶼部、都市化された地区での生態系と住民のネットワークおよび病院などの社会的施設やアクターの連関を分析するための資料と記録の編集の途上である。

⑥ 生態系環境調査・生活中の重金属分析
水俣地域の市民の研究団体である「みなまた地域研究会」と共同して、地域における生業と環境汚染の市民調査を実施し、水俣病をふまえた水俣地域の未来を考える活動を実施してきたところであるが。この市民協働を発展させ、環境汚染の実態を客観化するために、住民の食生活を通した水銀の摂取状況を調査する計画であったが、コロナ禍の影響により計画通りには進まなかった。コロナ禍も落ち着いてきたので、今後、食生活調査のデータと合わせて、毛髪水銀調査によって日常生活における人体への汚染の現状を明らかにすることが可能になる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計17件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 花田昌宣	４．巻 11号
２．論文標題 水俣学研究の課題と水俣病事件の現在	５．発行年 2022年
３．雑誌名 水俣学研究	６．最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 花田昌宣、内田龍史、杉本学	４．巻 51号
２．論文標題 熊本県部落出身家族のライフヒストリー：２家族３世代の聞き取りから	５．発行年 2023年
３．雑誌名 熊本学園大学社会福祉研究所報	６．最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中地重晴	４．巻 51（4）
２．論文標題 PRTR制度の進捗と展開 ー 化管法施行20年を振り返って ー	５．発行年 2022年
３．雑誌名 環境と公害	６．最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中地重晴	４．巻 52（1）
２．論文標題 大深度地下工事と自然由来重金属等土壌汚染	５．発行年 2022年
３．雑誌名 環境と公害	６．最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中地重晴	4．巻 52（2）
2．論文標題 水俣条約と水俣市周辺の環境問題 ー 水俣市の地域再生に関する新しい課題	5．発行年 2022年
3．雑誌名 環境と公害	6．最初と最後の頁 39-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 花田昌宣	4．巻 145
2．論文標題 2016年 熊本地震の自主的な避難所：インクルーシブな運営	5．発行年 2021年
3．雑誌名 消防防災の科学	6．最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 花田昌宣	4．巻 68
2．論文標題 認定義務づけ訴訟熊本地裁判決（3月30日）とその意味	5．発行年 2022年
3．雑誌名 水俣学通信	6．最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 花田昌宣	4．巻 66
2．論文標題 水俣病被害者互助会義務づけ訴訟の現在	5．発行年 2021年
3．雑誌名 水俣学通信	6．最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中地重晴	4．巻 11
2．論文標題 水俣病究明初期における臍帯中水銀濃度分析に関する論考	5．発行年 2021年
3．雑誌名 水俣学研究	6．最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田尻雅美	4．巻 216
2．論文標題 水俣病の歴史と差別の実態	5．発行年 2022年
3．雑誌名 部落解放研究	6．最初と最後の頁 89-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森下直紀	4．巻 54（2・3）
2．論文標題 シンポジウム「石牟礼道子の文学世界と水俣病」記録	5．発行年 2022年
3．雑誌名 和光経済	6．最初と最後の頁 99-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中地重晴	4．巻 12・13合併号
2．論文標題 水銀に関する水俣条約の採択・署名から10年、日本における水銀使用をめぐる現状と課題	5．発行年 2024年
3．雑誌名 水俣学研究	6．最初と最後の頁 85-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田尻雅美	4．巻 12・13合併号
2．論文標題 書評 高岡滋著「水俣病と医学の責任－隠されてきたメチル水銀中毒症の真実」	5．発行年 2024年
3．雑誌名 水俣学研究	6．最初と最後の頁 147-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森下直紀	4．巻 12・13合併号
2．論文標題 水銀被害に関するオーラルヒストリー カナダ水俣病とアニシナベ先住民	5．発行年 2024年
3．雑誌名 水俣学研究	6．最初と最後の頁 121-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 花田 昌宣	4．巻 44
2．論文標題 熊本県水平社：創立一〇〇年に寄せて	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Kumamoto ： 総合文化雑誌	6．最初と最後の頁 123-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中地重晴	4．巻 29（2）
2．論文標題 住民参加による産廃不法投棄からの原状回復－香川県豊島の経験と教訓－	5．発行年 2024年
3．雑誌名 熊本学園大学、総合科学	6．最初と最後の頁 55-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中地重晴、他	４．巻 2022年5月号
２．論文標題 有機フッ素化合物による多摩地域の水道水汚染と住民への影響	５．発行年 2022年
３．雑誌名 科学	６．最初と最後の頁 489-491
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計33件（うち招待講演　14件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 戦後高度経済成長と同和対策
３．学会等名 第39回九州地区部落関係史研究集会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 公害発生企業における労働関係史：水俣病とチッソ
３．学会等名 経済理論学会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 企業の社会的責任：地域社会と人権の保障
３．学会等名 長崎県企業人権啓発セミナー（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 水俣学とは何か
３．学会等名 SSHプログラム（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 井上ゆかり
２．発表標題 人権を保障するインクルーシブな避難所とは　避難所における医学的ケアの意味
３．学会等名 みやま市人権啓発講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 井上ゆかり
２．発表標題 不知火海沿岸漁村の暮らしと水俣病
３．学会等名 2022年度SS国語探求（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 井上ゆかり
２．発表標題 女島に惹かれて ー 漁村のなかの水俣病
３．学会等名 第120回水俣セミナー（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 中地重晴
２．発表標題 大深度地下利用と土壌汚染、自然由来重金属等土壌汚染のリスクコミュニケーション
３．学会等名 土壌汚染対策コンソーシアム
４．発表年 2022年

１．発表者名 中地重晴
２．発表標題 水俣周辺に計画されている大規模風力発電と水俣のまちづくりを考える
３．学会等名 水俣病事件研究交流集会
４．発表年 2023年

１．発表者名 田尻雅美
２．発表標題 水俣病問題の歴史と現在
３．学会等名 2022年度部落解放・人権大学講座（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 中地重晴
２．発表標題 水俣病究明初期における臍帯中水銀濃度分析に関する考察
３．学会等名 第16回水俣病事件研究交流集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 田尻雅美、井上ゆかり
２．発表標題 健康・医療・福祉相談から見える水俣病被害の実態と施策の課題 ー 被害者が求めるもの
３．学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2021年

１．発表者名 田尻雅美
２．発表標題 水俣病問題の歴史と現在
３．学会等名 2023年度部落解放・人権大学講座（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 井上ゆかり
２．発表標題 災害と人権－熊本学園大学避難所の経験から
３．学会等名 第21回水俣・芦北地区人権教育研究大会 第1分科会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 井上ゆかり
２．発表標題 経済成長最優先の陰で放置された公害―公害被害者に経済学はどう向き合うか
３．学会等名 新自由主義と闘った巨人、宇沢弘文―『人間のための経済学』はどう構想されたのか　PARC自由学校ハイブリッド読書ゼミ（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 佐藤英樹・佐藤スエミ・田尻雅美・井上ゆかり
２．発表標題 水俣病問題
３．学会等名 第5回差別禁止法を求める当事者のつどい
４．発表年 2024年

１．発表者名 康由美・井上ゆかり
２．発表標題 一次訴訟から50年　権力に抗う水俣のいま
３．学会等名 MINAMATA for Youth Project第1回
４．発表年 2024年

１．発表者名 井上ゆかり
２．発表標題 一次訴訟判決後から現在までの水俣病被害当事者の『かき消されゆく声』
３．学会等名 同時代史学会2023年度大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 井上ゆかり
２．発表標題 水俣の揺れるトラウマ、そして水俣学アーカイブとしてのメモリーワーク
３．学会等名 「メモリーワークと復興事業の文化人類学的研究」基盤研究B研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 井上ゆかり･花田昌宣･中地重晴･田尻雅美
２．発表標題 水俣学の歴史と未来 ― 水俣学アーカイブ
３．学会等名 社会的惨事特別調査委員会との研究交流
４．発表年 2023年

１．発表者名 井上ゆかり・花田昌宣･中地重晴･田尻雅美
２．発表標題 環境教育に活かす水俣学アーカイブの構築
３．学会等名 4.16民主市民教育員との研究交流
４．発表年 2023年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 公害病事件と差別と人権
３．学会等名 部落解放・人権確立第４２回全九州研究集会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 水俣病特措法の成立と今後の課題：今水俣はどうなっているのか
３．学会等名 第38回天草環境会議
４．発表年 2021年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 部落差別と人権：その歴史と現在
３．学会等名 第３９回筑後市同和問題・人権啓発推進大会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 人権を保障するインクルーシブな避難所
３．学会等名 志學館大学（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 障害者を受け入れた熊本学園大学の災害時避難所運営の経験
３．学会等名 神奈川工科大学　防災・災害ケア講座
４．発表年 2021年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 部落の歴史と部落差別の歴史：長崎絵図に見る差別地名記載
３．学会等名 第５８回全国隣保館職員九州ブロック研修会
４．発表年 2021年

１．発表者名 花田昌宣
２．発表標題 障害者を受け入れた熊本学園大学の災害時避難所運営の経験
３．学会等名 八戸市社会福祉協議会
４．発表年 2021年

１．発表者名 磯谷明徳・花田昌宣
２．発表標題 公害発生企業チッソの企業体質とその特異性
３．学会等名 経済理論学会 第69回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 中地重晴
２．発表標題 SDGｓで社会は変わるか
３．学会等名 熊本学園大学海外事情研究所60周年記念
４．発表年 2022年

１．発表者名 中地重晴
２．発表標題 About Contaminated site in Minamata
３．学会等名 第4回水俣条約締約国会議のサイドイベント
４．発表年 2022年

１．発表者名 中地重晴
２．発表標題 水俣条約と水俣市周辺の環境汚染問題、水俣の地域再生に関する新しい課題
３．学会等名 第37回日本環境会議九州大会水俣病分科会
４．発表年 2022年

１．発表者名 中地重晴
２．発表標題 水俣条約締結10年-成果と課題-
３．学会等名 第18回水俣病事件研究交流集会
４．発表年 2024年

〔図書〕　計5件

１．著者名 森下直紀（環境社会学会編）	４．発行年 2023年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 742
３．書名 環境社会学辞典（生物多様性の思想）	

１．著者名 中地重晴（谷口智子編）	４．発行年 2023年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 328
３．書名 タキ・オンコイ 踊る病	

1．著者名 熊本学園大学水俣学研究センター	4．発行年 2024年
2．出版社 熊本日日新聞社	5．総ページ数 83
3．書名 熊本学園大学・水俣学ブックレットNo.18　ガイドブック 水俣病を学ぶ、水俣の歩き方 新版	

1．著者名 冨田義典・花田昌宣　チッソ労働運動史研究会編	4．発行年 2021年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 365
3．書名 『水俣に生きた労働者　チッソと新日窒労組の59年』	

1．著者名 和光大学経済経営学部	4．発行年 2021年
2．出版社 創成社	5．総ページ数 288
3．書名 現代に問う経済のあり方，経営のあり方	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	井上　ゆかり (INOUE YUKARI) (10548564)	熊本学園大学・公私立大学の部局等・研究員 (37402)	
研究分担者	森下　直紀 (MORISHITA NAOKI) (40589644)	三重県立看護大学・看護学部・准教授 (24102)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中地　重晴 (NAKACHI SHIGEHARU) (50586849)	熊本学園大学・社会福祉学部・教授 (37402)	
研究分担者	田尻　雅美 (TAJIRI MASAMI) (70421336)	熊本学園大学・公私立大学の部局等・研究員 (37402)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計2件

国際研究集会 社会的惨事特別調査委員会との研究交流	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 4.16民主市民教育員との研究交流	開催年 2023年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関